

# 島根県の地震

令和7（2025）年5月

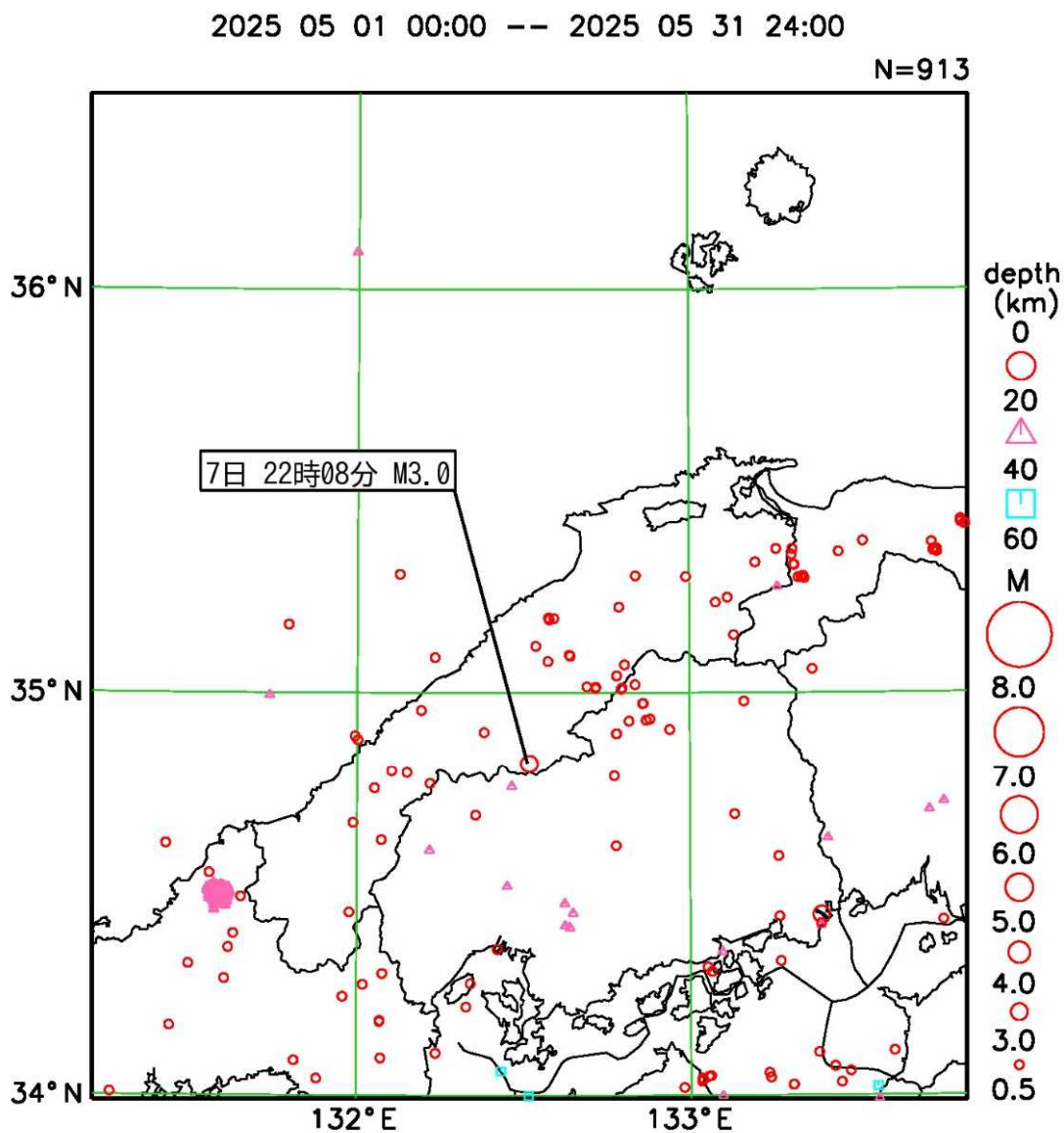
・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松江地方気象台

## 島根県およびその周辺地域の地震活動 2025年5月1日～31日



### [概況]

今期間、M0.5以上を観測した地震は913回（4月は790回）でした。

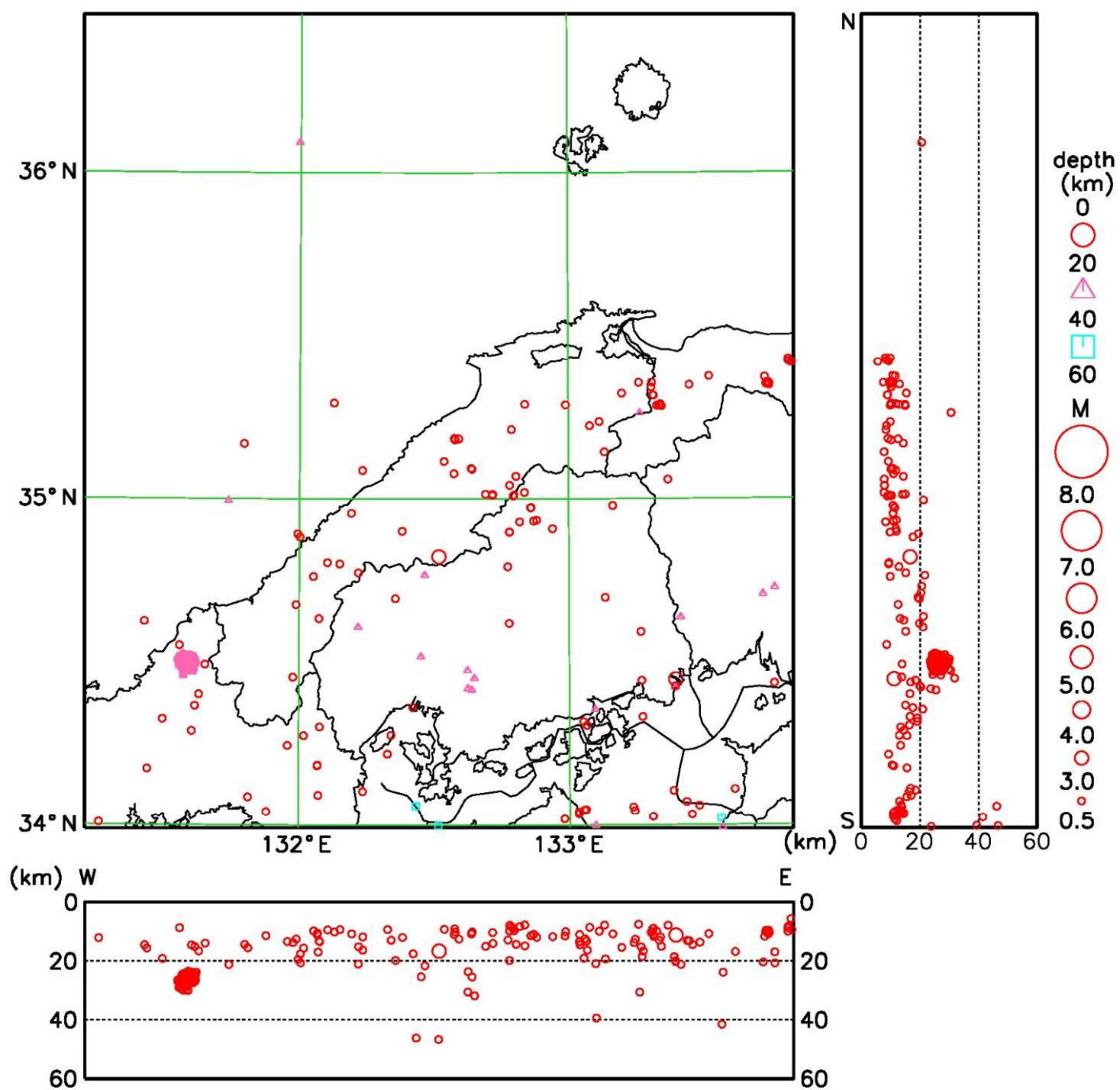
また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、1回でした。

7日22時08分 島根県西部の地震（深さ17km、M3.0）により、川本町・邑南町で震度1を観測しました。また、広島県安芸高田市で震度1を観測しました。

※山口県北部の地震活動については4ページ参照。

# [断面図]

2025 05 01 00:00 -- 2025 05 31 24:00



## 5月の島根県内の地震表（震度1以上）

| 発震日（年月日時分）<br>各地の震度（島根県内のみ掲載）   | 震央地名  | 緯度          | 経度           | 深さ   | マグニチュード |
|---------------------------------|-------|-------------|--------------|------|---------|
| 2025年05月07日22時08分               | 島根県西部 | 34° 49.4' N | 132° 31.0' E | 17km | M3.0    |
| ----- 地点震度 -----                |       |             |              |      |         |
| 島根県 震度 1：川本町川本＊，邑南町淀原＊，邑南町瑞穂支所＊ |       |             |              |      |         |

・地点名の後に＊がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

## 【観測点震度分布図】

2025年5月7日22時08分 島根県西部



## 山口県北部の地震活動

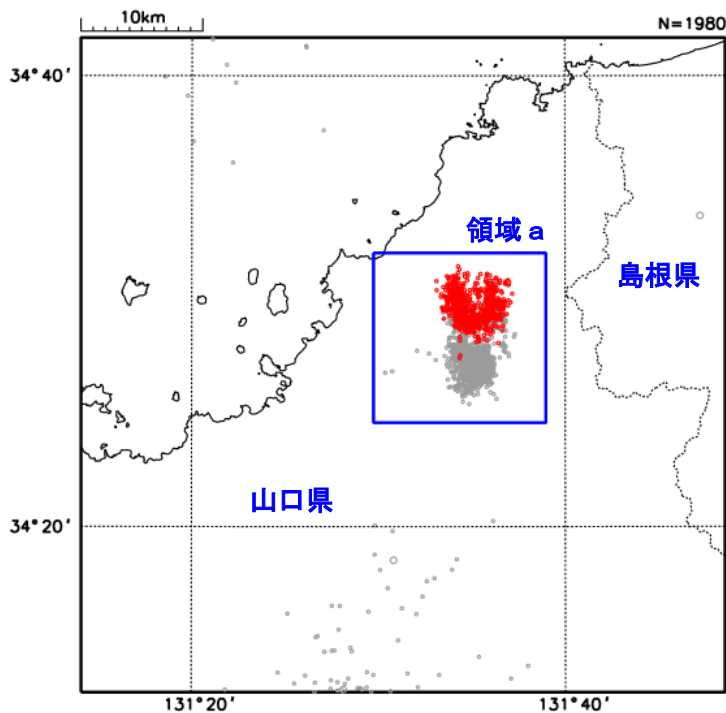


図1 震央分布図  
(2000年10月1日～2025年5月31日、  
深さ20～50km、 $M \geq 0.5$ )  
※2025年5月に発生した地震を赤色で表示

山口県北部では、これまで地震が発生していなかった場所(図1領域a)で、2025年2月1日から地震活動が見られるようになりました。この領域では3月上旬頃から地震回数が増加し、5月31日現在も地震活動は継続しています(図3)。領域a内の断面図(図2)を見ると、東側ほど浅い場所で地震が発生しています。

なお、5月31日現在、震度1以上を観測した地震は発生していません。

政府の地震調査委員会(※)は6月10日に公表した「2025年5月の地震活動の評価」の補足説明において、この地震活動について評価しました。評価の詳細については下記リンク先の資料(P4、P33、P38～45)をご覧ください。

※地震調査研究推進本部に属する組織で、地震活動の評価を一元的に実施しています。

資料のリンク先

[https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2025/2025\\_05.pdf](https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2025/2025_05.pdf)

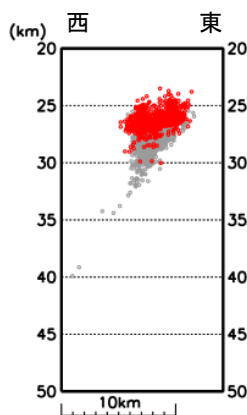


図2 図1領域a内の断面図

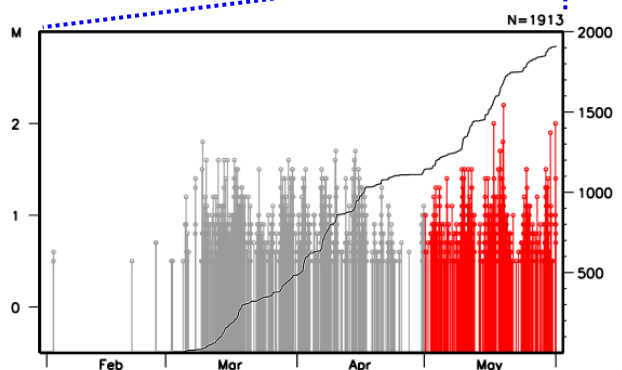
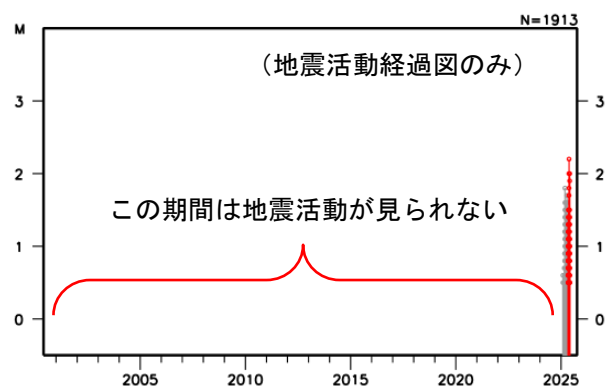


図3 図1領域a内の地震活動経過図及び回数積算図  
上段：2000年10月1日～2025年5月31日  
下段：2025年2月1日～5月31日

# 地震一口メモ

## 津波を知る

### ○津波のしくみ

海底下で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播するものが津波です。

※地震以外にも、火山噴火に伴う山体崩壊や海底地すべりなどで地形変動が生じることもあります。

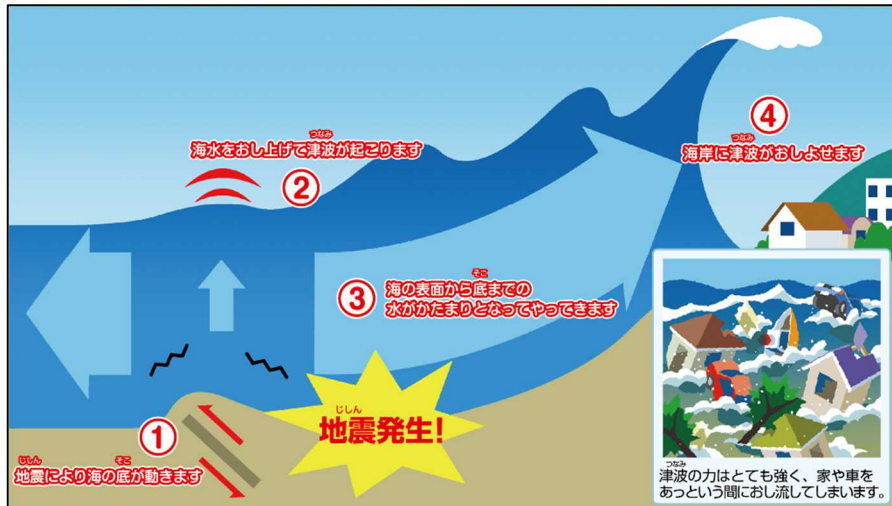


図1 海域の地震により津波が起こるしくみ

### ○波浪と津波の違い

海域で吹いている風によって生じる波浪は海面付近の現象で、波長（波の山から山、または谷から谷の長さ）は数メートル～数百メートル程度です。一方津波は、海底から海面までの海水全体が短時間に変動し、それが周囲に波として広がって行く現象で、波長は数キロから数百キロメートルと非常に長いものです。このため津波は勢いが衰えずに連続して押し寄せ、沿岸での津波の高さ以上の標高まで駆け上がります。津波は海底から海面までの海水全体が動くエネルギーの大きな波であり、海面付近の海水が動く現象である「波浪」と大きく異なります。高さ 0.2～0.3m 程度の津波も人は速い流れに巻き込まれてしまうおそれがあり大変危険です。

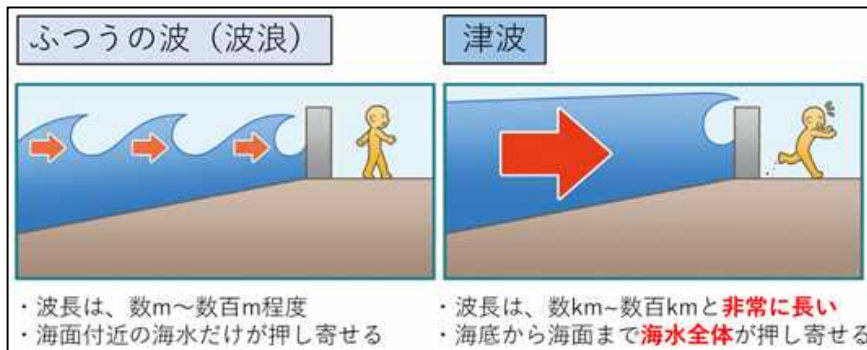


図2 ふつうの波（波浪）と津波の違い

# 地震一口メモ

## ○津波は引き波で始まるとは限らない

「津波の前には必ず潮が引く」と言われることがありますが、必ずしもそうではありません。地震を発生させた地下の断層の傾きや方向、また、津波が発生した場所と海岸との位置関係によっては、潮が引くことなく最初に大きな波が海岸に押し寄せる場合もあります。津波は引き波で始まるとは限りません。

## ○津波の伝わる速さと高さ

津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくにつれ、減速した波の前方部に後方部が追いつくことで、波高が高くなります。水深が浅いところで遅くなるといっても、人が走って逃げ切れるものではなく、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合いません。海岸付近で地震の揺れを感じたら、または、津波警報が発表されたら、実際に津波が見えなくても、速やかに避難してください。

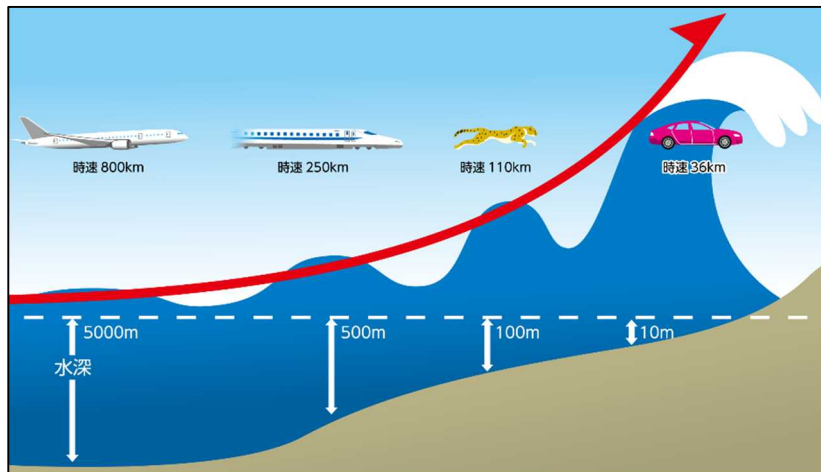


図3 津波の速さと高さの模式図

## ○地形による津波の増幅

津波の高さは海岸付近の地形によって大きく変化します。岬の先端やV字型の湾の奥などの特殊な地形の場所では、波が集中するので更に高くなることもあります。津波は反射を繰り返すことで何回も押し寄せたり、複数の波が重なって著しく高い波となることもあります。このため、最初の波が一番大きいとは限らず、後で来襲する津波のほうが高くなることもあります。

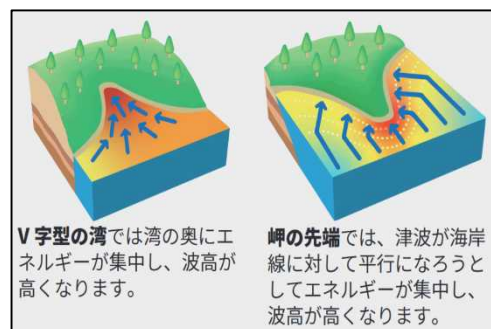


図4 地形による津波の増幅の例

参考：気象庁ホームページ

・ 知識・解説＞津波発生と伝播のしくみ

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/tsunami/generation.html>

・ 知識・解説＞よくお寄せいただくご質問＞津波について

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/faq/faq26.html>